



(4) 授業設計の焦点

本時は、手洗いによる洗濯の手順や方法を理解し、実際に体操服の洗濯を行う活動である。洗濯実習が、意欲的に行われるよう次の点に留意しながら指導していきたい。

- ① 体操服の汚れを十分に観察させることにより、洗濯への意欲を高めるまた、それにより洗いがりの爽快さをしっかりと感じられる活動としたい。
- ② 洗濯の手順は児童の意見を聞きながら実際に示範をすることで理解させる。

また、学習を振り返り、家庭での実践の意欲につながるようワークシートに洗いがりの様子も記述するよう指導する。

(5) 指導の実際

- ① 第三次第1時・第2時

ア 本時の目標

洗濯の手順や方法を理解し、手洗いによる洗濯ができるようにする。

イ 準備

ゼッケン、ワークシート、紙芝居、計量器（はかり・小スプーン・大カップ）、たらい、洗面器、洗剤、ロープ、ハンガー、洗濯ばさみ、取扱い絵表示カード

ウ 評価の観点

関心・意欲・態度	意欲的に洗濯の実習をしている。
創意工夫	自分なりの工夫を加えて洗濯をしている。
技能	体操服の重さをもとに、洗剤液を作ることができる。 手洗いによる体操服の洗濯ができる。
知識・理解	手洗いによる洗濯の手順や方法が分かる

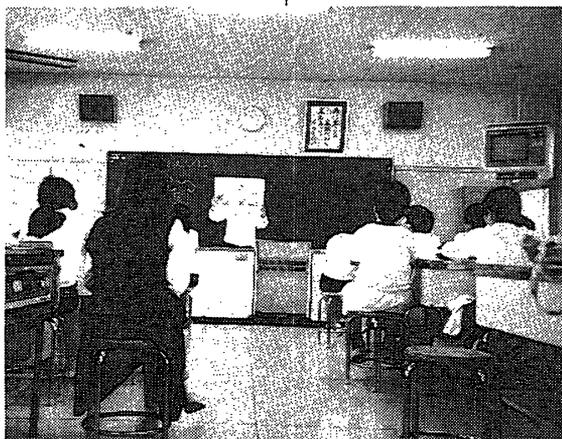
エ 展開の概要

学 習 活 動	児 童 の 反 応	教 師 の 支 援
<p>1 体操服の汚れを観察する。</p> <pre> graph TD     A[体操服の汚れを観察する。] --&gt; B[汗]     A --&gt; C[あか]     A --&gt; D[泥]     A --&gt; E[ほこり]             </pre> 	<p>提示されたゼッケンの汚れやにおいての話の聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「くさい」に対しての反応が大きい。</li> </ul> <p>体操服を観察し、プリントへ記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れを見つけてすぐに書く子</li> <li>・体操服を広げて見やすくする子</li> <li>・なかなか取り掛からない子など様々</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前の方、おなか」</li> <li>・「前と後ろのわきの</li> </ul>	<p>1 ◎体操服のどの部分が汚れているか、触った感じやにおいてはどうかなど汚れを十分感じられるような言葉がけを行う。</p> <p>「汚れた所は？」</p>

2 洗剤について理解する。

はたらき

標準使用量



下」

- ・「首のまわり」
- ・「背中全体」
- ・「くさい」
- ・「そうかぁ、おれ全然においせんで、あっやっぱりくさいわ」
- ・「毛玉」
- ・「砂ぼこり」
- ・「じめじめ」
- ・「汗」

「さわった感じやおった感じは？」

「くさい、じめじめは何の汚れ」

2 洗剤の働きや標準使用量について理解できるように以下のことを行う。

- ・簡単な紙芝居で、洗剤の働きについて分かりやすく説明する。
- ・洗剤の濃度と汚れの落ちる割合のグラフより、適切な量の洗剤を使うことの大切さに気付かせる。
- ・取扱い絵表示についても触れる。

私語、手悪さをやめ洗剤が汚れを落とす紙芝居をシーンとなって見る。(約1分間)

「洗剤はたくさん使えば使うほど汚れが落ちると思う人」という発問に反応小

「そうは思わない」にほとんど全員が挙手

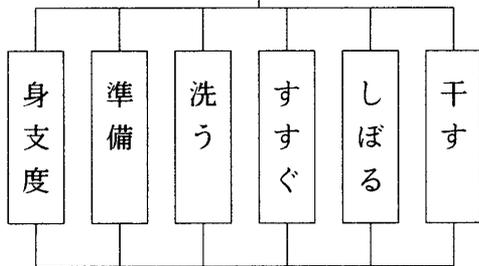
洗剤の使いすぎの問題点について考える。

- ・「洗剤がとれにくくなる」
- ・「すすぎづらくなる」
- ・「水をいっぱい使う」
- ・「川などが必要以上に汚れる」

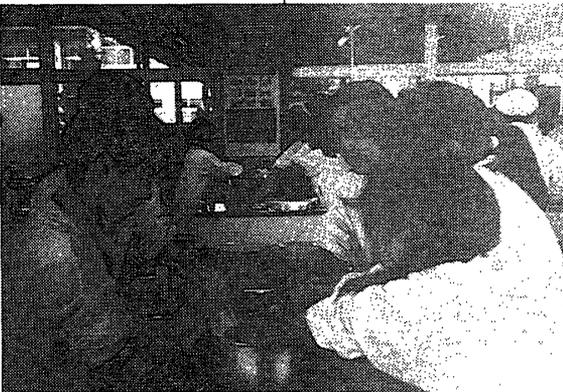
標準使用量について説明する



3 洗濯の手順を理解する。



4 洗濯実習をする。



洗剤の量の算出, 取り扱い表示についての支持・説明を聞く。

各班ごとにはかりを用意し重さをはかり, 水の量, 洗剤の量を計算する。

- ・体操服をきちんとたたんではかりに乗せてはかるグループ
- ・とにかく乗せてはかるグループ
- ・その後すぐに計算する児童
- ・違う物の重さをはかる児童など様々

取扱い絵表示のカードを見て, 洗い方などの確認をする。

- ・「洗濯機で洗ってもよい」
- ・「漂白してはいけない」
- ・「アイロンは中くらいの温度でかける」

洗い方についての示範を見る。

班毎に楽しそうに実習をする。

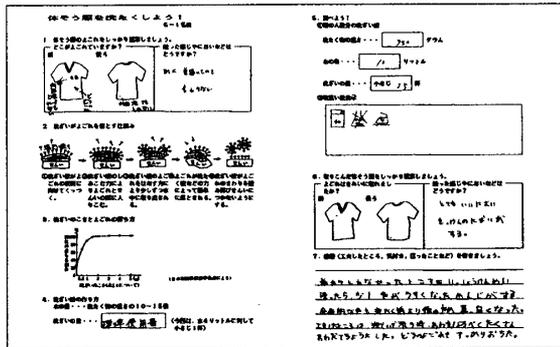
- ・「よく乾きそうな所に干そう」

3 ◎洗濯の手順や工夫など児童の意見を聞きながら示範を行う

4 洗濯がスムーズに進められるよう以下のように実習させる

- ・班で1つのたらいに洗剤液を作り洗う。
- ・すすぎは洗面器で各自行う。
- ・洗濯物を班でまとめて脱水機にかける。

5 本時のまとめをする。



- ・ 次の日の朝、半数以上の児童が洗濯物を取り込みに来る。
- ・ 大休憩、昼休憩の他の児童も取り込む。
- ・ 観察しプリントに記入する

5 後始末について指導し、洗濯物を取りこんだ後で観察しておくように伝える。

### 3. 実践の結果

視点「洗い上りの爽快さを感じられる授業であったか」

この授業で大切なことは、子ども達が「洗濯したら気持ちいい」「体操服がきれいになって嬉しいな」と感じられることである。この洗い上がったときの爽快さが感性に触れる部分であろう。

(1) 初めに汚れを観察する活動は、どんなに自分の体操服が汚れているかということに気づく活動である。ここで、しっかりと汚れの様子を観察することは、洗い上がった洗濯物との違いを強く意識することになり、洗い上りの爽快さを感じるために効果的であったと思われる。

(2) 洗う前と洗った後の違いを感じるために次のような方法も考えられる。

① 汚れた洗濯物ときれいになった洗濯物の重さを比べる。汗や砂ぼこりの取れた洗濯物は洗う前に比べ軽い。

② 洗った後の洗剤液をビーカーに取る。洗剤液の色や沈澱した物を観察する。

(3) 普段家庭の中で子ども達が、実際に行う機会の少ない洗濯は、なかなか児童自身めあて意識を持つことが難しいといえる。洗濯の必要感を持たせるために、もっとこの題材を扱う時期を工夫することができたと考える。例えば、運動会シーズンは、他の時期以上に体操服にはひどい汚れがついている。この時期は、体操服は汚れているのが当たり前であり汚れた体操服に対して、そんなに汚れるまで頑張っているねと評価することもできる。子ども達にひどく汚れた体操服を少し我慢させて身につけさせることにより、もっと洗濯の必要感を高めることができたのではないと思われる。

(4) 実習後の児童の感想より (全36名)

感想 (工夫したところ, 気づき, 思ったことなど) を書きましょう。(重複回答)

きれいになった・きれいになって嬉しい	8名
楽しかった・またしたい・家でも手伝いたい	7名
洗剤をよく溶きしっかり泡立てた・汚れのひどい所をごしごし擦った	6名
協力してやった・素早くできた・頑張った	5名
水が冷たかった	5名
昔の人は大変だったと思う・今は洗濯機があって助かる	3名

